

講演

地域づくりを考える

結城 登美雄氏(民俗研究家)

2日目は、結城氏による『地域づくりを考える』という講話を聞いた。

■『地域づくりとは何だろうか?』

ア)「地域」とは何だろうか?・・・「地域」とは、「家族の集まりである」

イ)「家族」とは何だろうか?・・・「家族」とは、「一緒に耕し一緒に食べるものたち」

ウ)「地域づくり」とは何だろうか?・・・家族の「願い」と「期待」、実現するには「悩み」や「課題」が出てくる。

では、どうすれば「願い」や「悩み」は実現・解決するだろうか?それには、①個人の力 ②家族の力 ③みんなの力が必要になってくる。同じ「願い」と「悩み」をもつ個人と家族が協力して「みんなの力」で実現、解決にあたること。それが「地域づくり」である。そして、よい地域の条件を教えてください。

■よい地域の7つの条件

- ① よい自然風土があること
- ② よい仕事の間があること
- ③ よい居住環境があること
- ④ よい文化があること
- ⑤ よい仲間がいること
- ⑥ よい学びの間があること
- ⑦ よい行政があること



吉富町外1町環境衛生事務組合

4月24日、組合議会は平成26年第2回の臨時会を開催しました。26年度補正予算(第1号)を全会一致で可決しました。

補正内容

歳入歳出総額 300万円を追加

◎ 歳入 繰越金 300万円

◎ 歳出 火葬場管理費 300万円(火葬場さく井工事)

●理由

火葬場の水中ポンプの取替え修理を平成26年第1回の臨時会で可決、取り替え修理に入ったが、地盤の変動により水中ポンプが引きあがらず、新たにボーリング工事と水中ポンプの設置に伴うさく井工事を行なう。

し尿処理場更新計画の説明

昨年(9月)更新計画の事業費試算(前回平成23年度)を再度行なった結果、当初計画の約2倍となった。施設規模29kl/日(し尿15kl/日、浄化槽汚泥12kl/日、農業集落排水汚泥2kl/日)、水処理は高負荷脱窒素処理方式、汚泥は資源化としてごみ焼却施設で助燃化とする。今年度地域計画を提出した場合のスケジュールは29~31年度に建設予定、建設方式はスクラップ・アンド・ビルドで行なう。

●事業費増額理由

当時建設していた全国のし尿処理場の小規模から大規模全ての建設費を出して平均で算出した約4000万円/klを単価として報告説明していた。今回見直しで、当該規模ではスケールメリットが悪く、40kl/日以下では約7000万円/klかかることが判り、建設費が増大した。今後、豊前市広域環境施設組合の動向を踏まえて再度方策を検討する。

豊前市外二町清掃施設組合

5月20日、組合議会は平成26年第3回臨時会を開催しました。

議案 同意第1号 監査委員の選任について

理由 ● 監査委員が、死去したことに伴い、新たな監査委員を必要としたため

■新監査委員 大塚 和己(吉富町) 全会一致で同意

全国町村議会議長会主催 第39回町村議会議長、副議長研修会

平成26年5月27日(火)~28日(水)
於:メルパルクホール(東京都)

増矢 年克

より良い地域づくりに向けた議会改革を

町村議会議長、副議長研修会が東京のメルパルクホールにおいて、約1,600人の議長・副議長が参加し、2日間にわたって開催された。研修会は、町村議会議長・副議長の研鑽の場として、昭和51年から毎年行っており、平成18年度からは副議長も参加している。開講にあたって全国町村議会議長会会長、蓬清二氏より挨拶があり、山梨学院大学法学部教授、江藤俊昭氏による基調講演「これからの町村議会のあり方」についてのシンポジウム、翌日には民俗研究家、結城登美雄氏による「地域づくりを考える」、ジャーナリスト、後藤謙次氏による「日本の政治経済の現状と今後の行方」の講演があった。



研修会を終え、より良い地域づくり、開かれた議会には何が必要なのか、講演や実際の活動や取り組みを聞く中で、多くのことを学ばせて頂いた。誰もがすみよい町づくりに寄与するため、学んだことを少しでもこれからの町政に生かせるよう町民、執行部とバランスを保ちながら今後も議会改革を進めていきたい。基調講演やシンポジウムの内容をまとめて報告する。

基調講演

住民と歩む地方議会 ~議会からの政策サイクルを創り出す~

江藤 俊昭 氏(山形学院大学法学部教授)

●住民と歩む地方議会を創り出す(国政と異なる地方政治)

- ① 議会内に与党もない野党もない→政策・監視機能の重視、議決事件をしっかりと議決、その追加と議決、首長提案の説明義務、質疑応答の方法(一問一答、単発から議論を踏まえた上での反問)
- ② 行政にも議会にも住民参加を積極的に導入
- ③ 委員会から議会の意志をまとめ上げる議員同士の討議、住民を巻き込んだ議論
住民に開かれ、住民参加を促進し(閉鎖的ではなく)首長とも切磋琢磨し(与党野党関係は存在せず、監視と政策立案の役割を發揮しつつ、議員の質問に対する執行機関からの反問権も認める)、議会の存在意識である議員同士の討議と議決(質問の言いつばなしではなく)を重視する議会であることが大事である。

シンポジウム

これからの町村議会のあり方

シンポジウムでは、4町村(北海道・長野・神奈川・熊本)の議会の取り組みの紹介があり、4町村共に、開かれた議会、住民と共に歩む議会を目指し、それぞれの地域性を生かしながら取り組んでいた。上毛町と同じような取り組みをしているところ、さらなる活性化に向けての取り組みを行っているところ、参考になるところが多々あり、特に参考になった議会の取り組みを紹介する。



●長野県南箕輪村の取り組み~議会活性化の動き

長野県の南箕輪村では、議会を活性化するために議会活性化検討委員会を設置、その中で、まずは住民の意見を聞くことから・・・ということ

- 各種団体との懇談会と「議会と語る会」開催
- より開かれた議会への取り組みのため、住民に情報を発信
ア)情報委員会の設置 イ)議会ホームページの充実 ウ)新聞やケーブルテレビ、携帯電話メール配信の活用 エ)本会議のテレビ中継とインターネット動画配信
- よりスピーディーな議会へ
ア)新たな委員長会議の設置 イ)寄せられた意見・要望に対する対応のマニュアル化 ウ)対応状況の情報発信